資料３

点検・評価　御意見（まとめ）

美術品の調査・収集事業

事業の感想やコメント

- 多数の寄贈により収蔵作品の充実を図られたのは良かったと思います。引き続きの活動をお願いします。
- 近年（令和３年度）に自らが設定した目標値であれば、達成は必須であると思います。
- 作品をデータベース化し、WEB で紹介する取組は、学校における美術教育において有用であり、実際に美術館へ赴くきっかけにもなると思います。
- 作品の寄贈については、昨年度から大幅に点数が増えており、所蔵作品が更に充実していると思いました。
- 令和７年度の寄贈件数は令和６年度比較で約４倍の８４点を受け入れ、喜ばしい寄贈件数の大幅増となりました。企画展開催を契機として作品や資料などが寄贈されたり、コレクターから一括寄贈があったということですが、展覧会で作品の魅力を最大限に引き出す展示を行ったりしたことや、それまでの誠実な交流実績による寄贈者との間の信頼関係によるものと推察します。
- 寄贈 84 点、寄託３点、移管１点の収集。特に平塚在住、平塚出身の方からの寄贈が多いとの事で、平塚市美術館への今までの信頼や関係性によるものだと思います。
- よみがえる絵画展は調査研究や保存活動の観点からも非常に良い展覧会だったと思います。

- 最新デジタル画像の公開件数についても、毎年度 240 件を目標に活動されており、情報発信に力を入れていることもわかりました。ただ、出来れば、240 件という目標件数の具体的な根拠が、資料では不明確なので、そこも示して頂けると助かります。あと今年度の実績値が 78 件ということで、目標に対してやや開きがあるように感じます。今年度中には目標を達成する予定とのことなので、ぜひ達成されるよう、引き続きよろしくお願い致します。

（回答）
当館が収蔵する作品の 50%については、大規模改修が始まる前年度（令和８年度）末までにデータ画像又は文字データを公開する目標を掲げています。そこからの逆算と展覧会業務との兼ね合いから、ここ数年は年間の公開件数を 200～300 件に設定しています。

- データベースの操作は使い易いですが、作品画像のないものも多々あるので、著作権の問題もあるのでしょうが、汎用性に疑問があります。

（回答）
当館コレクションは近・現代を中心に収集しているということもあり、作家や遺族、権利者の許可が得られない場合は、デジタル化や公開に制限がかかってしまうこともあります。

今後に期待すること

・収蔵品の保存や修復にフォーカスした企画や展示、講座などを引き続き行って頂きたいです。

（回答）【再掲：９ページ】
当館では「湘南の美術・光」をテーマに、日本の近現代美術及び湘南地域ゆかりの作家作品の収集・展示を軸としています。引き続き、企画・特集展を通じて多様な美術に触れる機会を創出し、市民に親しまれる地域密着型の「くらしに寄り添う」美術館を目指してまいります。

・行政との結びつきが強い公立の美術館という特性上、財政面の制約があるため毎年度継続的に美術品を購入することが難しい状況が続いています。今後の収集についてですが、美術品収集方針に合致したものを厳選しつつ、寄贈・寄託要件の一層の明確化を図った上で、寄贈と寄託に軸足を置くことで、効果的に収集活動を進めることができると思います。
・休館中、開館後の美術品の調査・収集事業の方針を示してほしい。
・平塚市美術館の成り立ちの精神（寄贈運動）が今後も受け継がれていく事を望みます。

（回答）
作品の収集については、当館収集方針に基づき候補作品を選定し、外部専門家で組織された収集委員会の審議を経たうえで行っております。現在は、作品購入のための予算はありませんが、質の高い作品を積極的に収集し、コレクションを体系的に構築するという美術館としての基本的な役割を果たすためには、寄贈のみでは十分ではありません。また、地域ゆかりの作家、特に優れた若手作家の支援のためには作品の購入は有効な手段ともなります。ついては寄贈・寄託は有効な手段であり最大限活用しながらも、外部資金を活用しながら、作品の購入の実現を目指したいと考えています。なお、美術館の休館中も作品の収集を継続するとともに、既収蔵作品に関する情報の整理や調査・研究を進めていく機会ととらえています。

・新規所蔵作品について、せっかくこれだけ多くの作品を収集したのであれば、ぜひそれについての PR も積極的に行って頂ければと思います。当然、全ての作品を紹介することは無理だと思うので、その中でも特に市民に注目して欲しい作品を何点かピックアップして紹介する形でも良いと思います。
・今後も収集活動を進めていただき、多くの収蔵品をデータベース化し、WEB にて紹介していただきたいと思います。
・美術館 WEB での画像公開についても、正直、周知がやや弱いと感じますので、より多くの市民にその存在が認知されたり、URL に触れる機会を増やして頂けたらと思います。
・「所蔵作品データベース」の存在がまだ広く認知されていない様に思うので、「地域社会の活性化」につながる画像公開になるよう期待します。
・データベース内容の充実（アートカードの裏面のようなコメントが入っていると WEB をのぞく市民の方や平塚市美術館に興味をもっていただける方も増えるかもしれませ

ん）

（回答）
美術館が美術品をインターネットで公開することは、地域や時間にとらわれず多くの人が作品を鑑賞できる機会を広げ、教育や文化交流を促進する点で重要です。また、作品の保存情報や研究成果を共有し、美術の理解を深める役割も果たすことが期待されますので、引き続き市ホームページやSNSでの公開に努めてまいります。

・よみがえる絵画展の資料（修復報告書）もあわせてWEB公開。

（回答）
修復報告書の著作権は修復工房に帰属していることから、ホームページ上での公開予定はありません。

魅力ある美術展覧会事業

事業の感想やコメント

- 年間を通してみると、展覧会の内容・構成はバリエーションに富み、とても興味深く評価に値すると思います。
- 全国の美術館等と連携することで、国内外の優れた作品を鑑賞できることから、来館者数の増加も期待でき、また、内容の面からも大変興味深く意味のある事業であると思います。
- 「よみがえる絵画」は、今までの展覧会にはない斬新な企画で、美術館の裏方の仕事である修復や保存管理にスポットを当てたものでした。修復が必要となった状況やどのような手当てが施されたのかがキャプションや報告書などの資料で示されていたため、絵画の修復過程を知る面白さや鮮やかに復元された色彩の背後にある美術館職員の仕事に対する情熱を感じました。
- 本年度も魅力的な展覧会ばかりでした。学芸員さんの方のご苦労の賜物だと思います。

- 昨年度と一昨年度の実績と比較した際にあげられる相違点について、お分かりになることがございましたら教えてください。個人的には夏の企画展はとても興味深いものでした。もっともっと集客があればと思っています。
- 実績値が大きく下がった理由について、自己分析してほしい。来館者の意見など、外部からではわからないこともある。
- 各種企画展を拝見すると、作家やジャンル、展示方法などバラエティに富んでいて、非常に充実していると感じます。いろいろと制約もある中で、館長様を始め学芸員の方々が、いろいろと工夫をされたり、アイデアを出されて開催されていることに改めて感謝致します。ただ、それだけに、実績の入場者数と目標値に開きがあるのが、やや残念です。個人的には、「よみがえる絵画」と「原良介」展が、特に印象に残っています。絵画の修復に関しては、話には伺っていたものの実作業についてはほとんど知識が無かったので、とても妙味深かったです。

（回答）

令和６年度はロビー展として「中勘助の小宇宙展」と「古井彩夏展」を実施し、約１万3,500 人の来場をいただきましたが、令和７年度のロビー展の実施はありませんでした。（正確にいうと、古井彩夏展は令和７年４月６日までの開催でしたが、入場数のカウントは令和６年度）

また、企画展の開催本数は３本と変わりありませんが、令和６年度は夏に実施した「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」は 50 日間の開催で入場者数 14,631 人と数字を伸ばしましたが、令和７年度に実施した平塚市出身の作家「原良介　サギ子とフナ子　光のそばで」では 81 日間の開催で 6,460 人にとどまりました。

この２点から、入場者数が前年度と比べ減少したものと分析しております。

※令和７年度の特集展は前年度より開催日数が２４日少ない状況でしたが、観覧者数は前年度比約 6,424 人増。

・事業収益も下がったと想像するが、それでも実施した価値のある内容であったと市民に説明できることが求められる。特記事項の観念的な説明ではなく、例えば、展覧会をきっかけに評価額〇〇円の作品が寄贈され、市の資産を増やしたなど。実質購入予算がない以上、そのための美術品選定評価委員会ではないか。

（回答）

令和７年度に企画展実施した平塚市出身の作家原良介氏展では、新作４点の寄贈を受け、そのうち１点は、平塚市出身の個人の方が展覧会を鑑賞したことをきっかけに作品を購入し、当館に寄贈してくださったものです。

映月展では、展覧会内容を高く評価してくださった複数のコレクターから計１８点の作品の寄贈がありました。

さらに、かつて市内の個人コレクターの所蔵作品展を開催したのちに寄託を受けていた作品の一括寄贈などがあり、今年度は展覧会にかかる寄贈だけでも総額で１億円を上回る評価額の作品の寄贈を受けました。

しかしながら、これらは個人からの寄贈であるため、金額等を公にすることが難しく、アピールし難いとも考えています。ただ、金額は公表できないとしても、こうした寄贈があったことは作品所蔵家や作家と美術館の信頼関係から生まれた展覧会の重要な成果として知って頂く工夫をしたいと思います。

今後に期待すること

・企画開催にあたり、作品の選定や相手方との調整等にご苦労されることと思いますが、優れた作品を間近で見れる機会となることから、今後もぜひ継続していただきたいと思います。
・原良介氏のような地元の作家や若手の現役アーティストには、今後もぜひスポットをあてて企画展を開催して欲しいです。日比野克彦氏や深堀隆介氏の企画展も入場者数が多かったと聞きますし、やはり現役のアーティストは集客力があると思います。
・経験則ではあります、市民アートギャラリーの入場者数は、同時期に開催されている企画展の影響が大きい印象があります。企画展の入場者が増えれば相乗効果でアートギャラリーの入場者も増えるので、そういう意味でも、企画展へのさらなる入場者数増を期待します。

（回答）
当館では「湘南の美術・光」をテーマに、湘南地域ゆかりの作家作品および優れた日本の近現代美術の収集・展示を基本的な方針としています。引き続き、企画・特集展を通じて優れた芸術作品に触れる機会を創出し、市民に幅広く親しまれるとともに、美術館の存在が市民にとって誇りとなるような質の高い事業を展開し、市内のみならず周辺地域にも集客の対象を広げられるように努力を続けたいと思います。

・改修期間を見据え、近隣の他の文化施設を利用する。あるいは連携・連動したプロジェクトや企画などを実行するなど、地域全体での活性化を期待しています。

（回答）【再掲：６ページ】
具体的な場所の確保については調査中ですが、休館中だからこそ取り組むことができる市内各所で開催するプログラムを通して、地域に根差した開かれた美術館であることをアピールしたいと考えています。

・工場撤退などで地域の人口減少が見込まれる中、単純な来館者数や収入額といった評価基準に飲まれることのない、論理構築が求められる。

（回答）
美術館の役割は、芸術作品の収集・保存・展示を通じて文化の継承と発展を促すこと、教育や鑑賞の場を提供し地域社会の文化振興に貢献することです。そのために、当館では基本方針として「くらしに寄り添う」「地域とつながる」「地域への誇りを育む」の３つを掲げています。ＫＰＩ評価の設定には、来場者数のような単純な定量評価だけではなく、来場者の満足度のような視点や定性評価も組み入れるなど、複数の視点に基づく評価軸を定めていくことが重要であると考えます。

・「平塚市美術館と言えば〇〇だよね」と言われるような、特徴や特色が持てるようになるとよりよいのでは？と思っています。もちろん、広範に扱うことも必要ですが、それと同時にあるジャンルに特化した企画展を定期的に開催するなどして、そのジャンルのファンにとっての聖地のようになれば、リピーターも増えるのでは？と考えます。

（回答）

当館のこれまでの方針として、日本の近現代美術をバランスよく紹介することを継続的に行ってきています。それにより、一定数のリピーター、長年のファンともいえる方々がいらっしゃいます。美術館としては、これまで美術館を支えてきて下さった方々を大切にしつつ、新たな来館者を獲得することを目指したいと思っています。
そのための展覧会ラインナップとして、春や秋には、従来から重点を置いてきた近現代の日本画や洋画、彫刻を中心とした展覧会を、夏休みの期間には子どもから大人までの広範な対象を想定したファミリー向け展覧会特に絵本を中心とした展覧会を想定しています。加えて、教育普及業務では、令和６年度から行っている夏のワークショップイベントに加え、令和８年度はゴールデンウィークにも新たな親子向けイベントを企画しています。展覧会事業と教育普及プログラムを連動させながら、賑わいのある美術館となるよう努力したいと思っております。

・「よみがえる絵画」について、一部の作品については、修復前の絵画写真が展示されていましたが、他のほとんどの作品は綺麗になった修復後の作品展示でした。通常は非公開の修復報告書や、データなど貴重な資料も展示されており、補完的なものとなっていましたが、次回、このような展覧会を開催する場合には、修復前に撮影した写真をポストカードサイズにしてキャプションの下に添えるなど、修復前の状態も視覚的にわかるようにすると、より多くの来館者に修復の意義が伝わりやすいと思います。

（回答）
展覧会では、目的や意図を明確に伝えることで来館者の理解と共感を深めることが大切です。いただいた意見については参考にさせていただきます。

・美術館に何度も足を運び、何度も作品を観ると、美術館にも作品にも愛着がわいてくると感じます。同じ展覧会でも何度も足をお運びいただけるような取組（年間パスポート発行、イベントの充実、発売グッズの充実など）を期待します。

（回答）
美術館に興味・関心を持っていただき、何度もお越しいただけるような工夫について、他館の先行事例などを研究しながら、取り入れていきたいと思います。

・ぜひ、今までのような魅力的な展覧会を開催していただきたいと願っています。

美術教育の普及・体験事業（ギャラリートークの実施）

事業の感想やコメント

・昨年度の実績（内容／関連する展覧会や回数による）を例外的なものと捉えれば、一昨年度と同様に目標値を上回っており評価できます。また、特記事項に記されているように、同時代に生きる作家による地域に根差した試み、SNS による発信効果にフォーカスした新しい試みなどもとても素晴らしいと思います。

・目標数に到達しており、一定の成果を収めていると思う。

・昨年度は目標値の３倍程度の方が参加されており、今年度も既に目標値を超えた方の参加があることから、大変人気のある事業であることが分かります。見るだけでなく、対話をすることで、一層興味がわき、また視点が変わり、新たな気づきも生まれることが期待できる事業であると思います。

・ギャラリートークについては、毎年参加人数が目標値を大きく上回っており、本年度も既に目標値に達しているということで、事業として非常に盛況かつ成功しているように思います。

・今年度から始められた「ぬいぐるみお泊まり会」企画は、一見美術館とは関連が薄いようにも感じますが、結果として大きな成果を上げており、美術館との接点を増やす、親近感を深めて貰うという点においては、非常に有効だと感じました。

・新たに実施した「ぬいぐるみのお泊り会」は、SNS で大きく脚光を浴びたとのことで、動画版を視聴しました。ぬいぐるみの散歩を介して、美術館の屋外の１階と２階に展示されている彫刻の紹介があったり、館内や展覧会の注目作品が紹介されたりしていて、コミカルな曲を背景にした紙芝居的なストーリーとの相互作用で、平塚市美術館の良さを市内外の方に知ってもらえる良い取組だと思いました。

・何度かギャラリートークに参加いたしました。作家や作品への理解が深まり、愛着がわきます。中村正義展での日本画家内田あぐり氏の話は、日本画家ならではの臨場感あふれるお話が伺えて、中村正義に想いを馳せました。よみがえる絵画展では、学芸員さんの大きな仕事の１つである保存にスポットをあてた展示とギャラリートークで美術館を知ってもらうとてもいい企画だと思いました。原展は平塚ご出身の作家さんということで、作品にも平塚市ゆかりの風景や市鳥、市魚が描かれており、原さんの表現を通じた平塚を体験することができ、アートを介した平塚への愛着を鑑賞者も味わえる展覧会とギャラリートークだったと思う。

・ぬいぐるみお泊り会は初回子ども向けでしたが、大人向けに拡大し、応募したい人が私のまわりにもたくさんおり、反響の大きい良い企画だと思う。

今後に期待すること

・今年度の実績や内容を継続・維持することを期待しています。
・継続してください。
・引き続き、魅力のある事業を企画立案し、開催していただくことを期待しております。

・「ぬいぐるみお泊まり会」は、企画そのものはもちろん、美術館自体の市内外へのアピールにも繋がると思いますので、ぜひ来年度以降も継続して開催して欲しいと思います。
・「ぬいぐるみのお泊り会」は、個人の思い入れがある私物を預かるため、丁寧な配慮が必要で手間のかかる取組ですが、それまで展覧会に縁の薄かった層が、平塚市美術館に興味や関心を持ち観覧者の裾野が広がるため、結果としてギャラリートークやアーティストトークの参加にも繋がると思うので今後も定期的に継続することを望みます。

・ギャラリートークに関しては、都合がつかなかったりスケジュールの関係で参加が出来ない人も多いと思われるため、例えば、トークの内容を収録した動画を後日配信するなどしても良いと思います。場合によっては、それによって図録の販売促進に繋がるかもしれません。

（回答）
著作権や肖像権の許諾、音声や映像の品質、配信に適した環境や設備などの理由から動画の後日配信は難しいと考えております。
そのかわりとして、３分程度で展示内容を解説動画の発信などを行っていきたいと思っています。

・休館日の利用（もし身体的弱者が来館しづらいということならば、休館日の利用もあっても良いのかもしれないと思う）

（回答）【再掲：４ページ】
当館の基本方針の１つに「くらしに寄り添う」を掲げています。誰もが美術を楽しむことができる多様性に配慮した環境を整えるための工夫を検討してまいります。
具体的には、障害のある方の特別鑑賞会を休館日に開催することも候補のひとつと考えてられます。しかしながら現状では、対応する職員の勤務体制や実施にかかる経費の増加分の算出など検討すべき事項の洗い出しを行った上で実施の可否を考えていくことになります。

・発信力の強化。

（回答）
現在、美術館ウェブサイト、X（旧 Twitter）、インスタグラムといった SNS への投稿のほか、専門誌等に展覧会 PR のためのメール配信業務委託を行っています。また、展覧会ごとに協賛をいただく神奈川中央交通株式会社には、ポスターをバス車内に掲出してもらってます。引き続き、このような取組は継続しつつ、このほかにも様々な広報活動を展開できるよう研究してまいります。特に、美術館ウェブサイトの充実、ショー

ト動画、SNS 発信の充実と地域メディアへの情報提供強化について具体的かつ早急に検討致します。

・参加の際の e-kanagawa システム利用のハードルを下げた応募方法。

（回答）
現時点では同システムを用いた申込を多数いただいております。また、はがきでの申し込みも併用していることから、応募方法についての変更は考えておりません。

美術教育の普及・体験事業（ワークショップの開催）

事業の感想やコメント

- 目標数に到達しており、一定の成果を収めていると思う。
- 例年と比較して、今年度は多くの方が参加されており、所蔵品の WEB 紹介と同様に来館者を待つだけでなく、積極的な事業活動であると考えます。また、ボランティアの活用や育成など、このような草の根の活動がやがて多くの美術愛好者を生むことにつながると考えます。
- ワークショップへの参加者数が３年連続で目標値を上回ったことは、ワークショップ数を令和６年度の３９講座から、今年度は５３講座と大幅に増やし、内容も毎年度充実を図っていることによるものと考えます。このために企画や準備をした美術館職員の努力を高く評価するとともに、今後もこの傾向が続くよう望みます。
- 平塚市美術館の美術教育ワークショップは非常に質が高いと感じます。
- ワークショップは人気が高く、落選する方の声もよく聞きます。
- アーティストご本人が市内小学校へ出向く授業は、体験型学習として、子どもたちに非常にインパクトがあると思います。
- ひらビーによる対話型鑑賞の小学校への取組は、全国をみてもそう多くはなく、平塚市美術館の誇れる事業だと感じます。

- 実績地が着実に増加しることは評価できます。昨年度より始められた８月実施の「夏休み特別ワークショップイベント」について、もう少しご説明（ご報告、参加者数など）頂きたく存じます。

（回答）
ワークショップイベント「美術館であそぼ！」は８月９日～１１日の３日間開催し、延べ参加者数は 1,119 人でした。美術作家の對木裕里さんのワークショップ「スケスケスカルプチャ」では、透明な素材や骨組み構造（スケルトン）を用いて立体作品を作るワークショップを実施。企画展と連動した原良介さんのワークショップ「自分のわっかをつくろう」では、身近な自然との接点を表現する試みを実施。そのほかに、中高生ボランティアによるワークショップでは、オーナメント、ミニノート、ポスターバッグを作成など、延べ 28 プログラムを実施しました。

- ワークショップについては、参加人数が毎年目標値を達成していることに加え、講座の内容や多様な対象者など種類も豊富で、非常に盛況であると思いました。むしろ、その盛況、充実ぶりが市民に周知されていないように見えるのが、惜しいとも感じます。

（回答）
市ウエブや SNS を活用したより一層の周知に努めるほか、積極的にメディアにも情報提供することで、平塚市美術館が行う教育普及活動への興味・関心を喚起してまいります。

今後に期待すること

- 特になし。
- 継続してください。
- 今後、高校としても、美術教育の一環として、美術選択者の生徒を対象に参加させていただきたいと思います。機会があれば教えていただければ幸いです。
- ボランティアひらビーの活動上の権利の充実

- ワークショップなどへの参加を通じて美術館や美術そのものへの接点が増え、絵画や彫刻などの作品制作をする人が増えることも期待します。それが、ひいては文化祭や市展への出品者の増加にも繋がると思うので、特に学生児童が参加するワークショップでは、そういった点も多少考慮して頂けると幸いです。

（回答）
児童・生徒の美術に対する興味関心を引き出すためには、実際に手を動かした作品づくりや鑑賞の体験、作品や作家の魅力をわかりやすく伝え、親しみやすくするための仕掛け、多様な表現方法に触れられる機会の充実などの視点を取り入れたいと思います。

- 美術館の改修による休館期間は、物理的な制約を逆手に取り、美術館が街へ出るための良いアウトリーチ機会と捉えることができます。昨年、平塚市では、平塚駅周辺地区の再開発実現に向けて、商店街の歩道や公園といった公共空間を活用して、交流や活動の場を創出するイベントを開催しました。今後、このような街中での市主催のイベントと連携して、美術館としてワークショップを開催することも検討してもらえればと思います。

（回答）
具体的な場所の確保については調査中ですが、休館中だからこそ取り組むことができる市内各所で開催するプログラムを通して、地域に根差した開かれた美術館であることをアピールしたいと考えています。

- ワークショップについては、正直もう少し活動の PR を増やしても良いかと思います。

（回答）
市ウエブや SNS を活用したより一層の周知に努めるほか、積極的にメディアにも情報提供することで、平塚市美術館が行う教育普及活動への興味・関心を喚起してまいります。

- 幼児向け、中学生以上のワークショップは充実していますが、小学生向けのワークショップの開催が少なく、参加しづらいという声を聞きます。もう少し拡充することを期待します。
- プログラム定員数に対して応募数が非常に多く感じます。内容は同じで開催回数を増やし、アートにふれていただいたり、興味をもっていただけたり、平塚市美術館を知っていただく、来館していただく機会を増やして欲しいと希望します。

（回答）

例年、ワークショッププラグラムの回数の確保には努めておりますが、プログラムの質を確保しつつ、限られた職員で企画・実施するため、なかなか機会を増やすことが難しい状況です。一方、改修期間中には、様々な場所に美術館側からアウトリーチして、普及啓発事業を展開することを予定しておりますので、そうした機会も生かして、美術館に興味関心をもっていただける方を増やしていきたいと思っています。

・アートカードの改定

（回答）
現在のアートカードは 2013 年に平塚市中学校教育研究会美術科部会所属の教員の協力を仰ぎ、実際の教育現場で使う観点から 48 点の作品を選び、判型や遊び方についても協議をして作成したものです。改定にあたっては、現場レベルでの使用方法等において課題が生じていないか等、実態把握の上で検討していくものであると考えます。

アートギャラリー等施設利用促進事業

事業の感想やコメント

・多くの来館者を迎えられるよう、様々な取組や工夫をされていることと思います。利用団体数は昨年度比較して増加しているので、目標値の達成に向け、引き続き、魅力ある取組等を進めていただきたいと思います。
・令和７年度の実績値について、入場者数は前年度より少ない人数となっていますが、利用団体数は前年の同時期よりも１７団体増加していて年度末までを見通した場合、前年度を上回ることが見込まれるため、施設の団体利用面から良い傾向が続いていると思います。
・２月と３月の数値を計上（想定）した場合、目標値、実績値ともに昨年度比同等（同時期）という認識で宜しいでしょうか。そうであるならば、ここ数年間の実績は安定していと考えられます。これもひとえに館長をはじめ職員皆様方の努力の賜物と思います。

（回答）
令和７年度のアートギャラリー等利用者数は例年と同程度を見込んでいます。

・実績数の大部分は市民アートギャラリーの利用者数が占める。現状でも 223 日の利用となっており、これ以上の大幅な稼働率増が見込めないのであれば、目標値を再考すべきである。実現不可能な目標値は無意味である。
・アートギャラリー及びその他付帯施設の入場者数は、毎年３万５千人程度で推移しており、本年度も３月に平塚市展が開催されるためおそらく同程度の数字になると考えると、比較的安定的な運営が成されているように思います。当然、さらに入場者数が増えていけばより好ましいですが、利用団体数や利用日数から言っても、現実的にはほぼ頭打ちなのかとも思います。その観点から考えると、６万人という目標値は、実績に対してやや乖離があるように見えます。こちらも資料では目標値の具体的な根拠が不明確なので、可能であれば、そこを示して頂けると助かります。

（回答）
目標値はコロナ禍以前の実績を踏まえ設定しています。コロナ禍以降、市民アートギャラリーの利用団体数が微減したことに伴い、目標値と実績値との間に乖離が生じている状況が続いています。ご指摘の点を踏まえ、新たな数値目標の設定については関連計画の改定にあわせて検討します。

・水まわり（トイレレバー）の不具合などは、大規模改修時に改善することを望みます。
・構造上難しいのかもしれませんが、展示室側にトイレがないのはとても不便という声をよく聞きます。

（回答）
今回の改修事業では、既存トイレの内容・設備を全面更新しますので、設備上の不具合は解消されるものと考えます。また、当館は、展示室側の１階エントランスホールと普及啓発側の２階のテーマホールにそれぞれにトイレを設けておりますので、新たなトイレの増設は計画にありません。

・ひらビ活動やワークショップの参加時にアトリエに入りますが、常にきれいで整理整頓されています。館内も清潔感があります。

今後に期待すること

・大幅な改修期間を踏まえ、実績の大半を占めるアートギャラリーをはじめとする、施設利用の代替案などはどうなっておりましょうか。

（回答）
JR 平塚駅直結のラスカ平塚６階にあるラスカホールを市民アートギャラリーの代替施設とするため、貸主のラスカ側と調整中です。

・令和８年度中に美術館が大規模改修で休館するため、平塚駅前の商業施設に市民アートギャラリーが設置されるとのことですが、同じ商業施設に中央図書館分館が開設されるため、開設記念に図書館分館との共同開催事業を企画してみてはどうでしょうか。

（回答）
原則、市民アートギャラリーの代替施設としてラスカホールは、市民にご利用いただくスペースです。そのため、市企画事業として利用枠を占有することは、なるべく避けたいと考えています。しかしながら、利用状況が少ない場合など、スペースを有効活用する上では、ご提案の企画についても実施することが可能かと思われますので、その際のアイディアとして検討させていただきます。

・改修によって、アトリエの利用日数が増えることが期待されるが、そのためには、平日割引など利用料金等の見直しが必要かもしれない。

（回答）
歳入確保策の一環として、今後の検討材料とさせていただきます。

・入場者数については、利用する団体の集客力に依る部分も大きいため、さらに多くの集客を図るのであれば、例えば利用団体にその旨を伝えるなどして、集客の促進を促すことも必要かと思います。

（回答）
市民アートギャラリーの入場者数増加に向けては、利用団体には積極的に周知にご協力をいただくとともに、美術館としても可能な範囲でご協力させていただきます。

・入場者数に関しては、開館時間の影響も大きいように感じています。今以上の集客を図るためには、曜日によって開館時間を延長するなどの検討も必要かも知れません。

（回答）
開館時間の設定については、利用団体の意見も参考にしながら、施設管理全般の運用等も踏まえ、検討させていただきます。

・授乳室、子ども用トイレをもう少し気軽に利用できるようになるといいと思う。平塚市美術館では子ども向けのワークショップが充実しているので、特に期待します。
・オストメイトの設置。

（回答）
今回の改修事業では、既存トイレの内容・設備を全面更新することに加え、テーマホー

ル１階のバリアフリートイレにはオストメイト、ベビーチェア、フィッティングボード、介助用ベッドを新設、エントランスホール２階のトイレは既存の壁を撤去の上、ベビーベッド、ベビーチェア、フィッティングボードを新設します。

・大規模改修工事が控えているとのことですので、美術に興味関心がある人はもちろん、あまり関心ない人でも気軽に訪れて、実際に美術に触れることで、その後も足を運びたいと思える施設にしていただければと考えます。
・平塚市には盲学校、聾学校がある神奈川県でも数少ない市です。盲の方、聾の方も今後楽しめる美術館への取り組みに期待します。

（回答）
当館の基本方針の１つに「くらしに寄り添う」を掲げています。誰もが美術を楽しむことができる多様性に配慮した環境を整えるための工夫を検討してまいります。